

しじょうりゅうほうちようぎしき  
四條流包丁儀式の解説

「庖丁儀式」は日本王朝時代の厳肅な儀式であり、古典文化生活の一表情であります。四條流の名は平安朝の初期、五十八代光孝天皇が料理に興味をお持ちになり御みずから包丁を執られまして、数々の官中行事を再興されました。

「四條流庖丁書」には四條中納言藤原朝臣陰卿が、鯉を庖丁したことから、庖丁の儀式の切形がはじまったと記録されています。また「源氏物語」の「常夏巻」には「いと暑き日、ひんがしの殿に出給ひて、すずみ給ひて、すずみ給ふ、中将の君もさふらひ給ふ、したしき殿上人あまた候ひてにし川（桂川のこと）より奉れる鮎、ちかき川のいしぶしやうの物、おまへにて、調じてまいらす」—云々と書いてあります。また「宇治拾遺物語」では、記茂経が「さて狙坂、洗ひて持て参れ」と声高いひて、やがて茂経今日の庖丁仕らんといひて、真魚箸けづり輪なる庖丁抜いて云々と記されてあります。

このように「庖丁式」は、まことに古い時代から行われたものでありまして、幾多の文献を見ましても、そのはじめは殿上人（公卿）や、大名が賓客を我が家に招いた場合にその家の主人が心から歓待する意味で、まず、主人みずから庖丁をとって、庖丁ぶりをみせてその切った材料を、お抱えの御膳部の料理人に調理させて、ふたたびその賓客のお膳に供して、御馳走したものであります。従って「庖丁式」というものは、厳肅の儀式であるとともに、あの平和な大官人の風流優雅な気分と生活の一端を表現した社交儀式とも言えましょう。

ことに「鶴の御膳庖丁式」とゆうものは、伊勢貞丈の随筆「額縁の巻」にも記されてあるように、正月二十八日、禁中（宮中）の清涼殿で行われたもので、天皇の御膳でなければ許されないうそかな庖丁儀式とされておりました。この「鶴の庖丁式」の切り形にも「式鶴」「真千年」「草鶴」「鷹鶴」というような名称の切り形があります。

「鯉の庖丁式」の切形は四十種以上もあって、それぞれ、その名前も異なっています。たとえば、「竜門の鯉」とか「長久の鯉」とか「神前の鯉」「馬場の鯉」「出陣の鯉」「梅見の鯉」「二唯の鯉」等々があげられて、その宴にふさわしい意味での庖丁式がとり行われるのであります。

また、鯉のほかには、鯛・真鱈・鱈・鮒・鮓・鮓・鮓・鮓などの魚類をはじめ、雁・鴨・雉・鶴等々の鳥類もその材料に用いられます。雁を例にすると、「式雁」「真雁」「初雁」「帰雁」「落雁」「雁やつし」等の切り型と名称があります。

かように、「庖丁式」は日本古来からの優雅な「王朝文化財」であります。戦国時代や世の時代時代のうつりかわりに、この儀式の盛衰もありましたが、幸いにも「四條流」は時代の篩にかけられて滅びることなく、徳川中期からこの庖丁式の切型が石井家に伝承されました。明治になってからは、この伝承の唯一の人で先年物故された四條流宗家九代石井泰次郎翁であります。

日本料理の最高權威である故山下茂氏は、この石井翁に師事して「庖丁式」の奥義をきわめ切磋琢磨すること、実に三十二年の長き歳月に及びました。

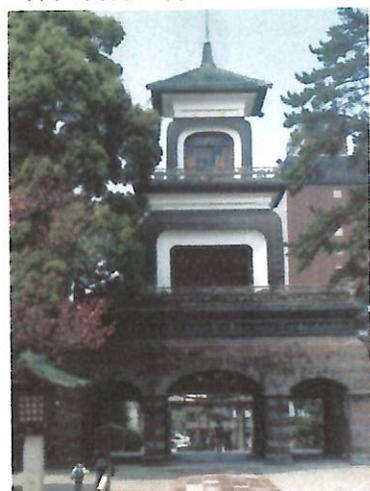
今日としては、昭和四十五年十二代家元を襲名された故山下茂氏の「庖丁式」は、あの先々代幸四郎丈の名技十八番「勸進帳」の弁慶のごとく有名であり一種の「名物」とされていきました。然も近來この「庖丁式」の伝承の重要性がとみにみとめられて、生前山下茂氏に教えを乞う門人も日本全国に数多く、現行四條流庖丁儀式を入口修三氏（號柏修）十六代家元を襲名致し日夜研鑽していることは、わが日本の無形文化財たる「庖丁式」を永く後世に伝える意味からしても、「四條流庖丁儀式」の伝承は現在数多くの師範及門人に於いて継承されて居り日本料理道のために悦ばしいことであります。



浅野川園遊会



神田明神四條流庖丁儀式奉納



奉 祝

御奉納 四條流庖丁儀式  
主 催 四條流庖丁式金沢柏網社中  
日 時 毎年六月吉日

ご奉納場所 一、尾山神社(毎年六月第一日曜日)  
二、波自加彌神社(毎年六月一五日)

式 次 第

解説 四條流門人会会長

四條流十六代家元 入口修三(號柏修)

後見人 四條流庖丁儀式門人会 副頭取

四條流金沢柏網社中 代表

正師範 清水網雄(號柏網)

四條流 正師範 遠藤 柏 進

四條流 準師範 西 柏 司

四條流 正師範 多々見 柏 胤

四條流 一級位 中里 柏 知

四條流 準師範 前田 柏 利

四條流 三級位 大友 柏 悟

四條流 四級位 梶 柏 助

四條流門人会事務所並び社中代表所在地

- 一、十六代家元(門人会事務所) 〒四七五、〇〇七八  
(入口柏修) 愛知県半田市新池町一、二〇二、二
- 一、四條流庖丁式尾張名古屋社中  
代表(入口柏修) 愛知県半田市新池町一、二〇二、二  
〒(〇五六九) 二九、〇三九
- 一、四條流庖丁式東京社中  
代表(佐藤柏翔) 東京都千代田区外神田二、十六、二  
〒(〇三三) 三三五、五〇七〇
- 一、四條流庖丁式埼玉社中  
代表(齊藤柏鳳) 埼玉県熊谷市宮前町一、一五三、一〇〇三  
〒(〇四八五) 二五、八八六九
- 一、四條流庖丁式金沢柏網社中  
代表(清水柏網) 石川県金沢市長町一、五、一十四  
〒(〇七六) 二三三、二〇四四
- 一、四條流庖丁式茨城社中  
代表(安 柏水) 茨城県那珂市瓜連六四二、一  
〒(〇二九) 二九六、〇三七五
- 一、四條流庖丁式長崎社中  
代表(磯邊柏慶) 長崎県長崎市愛宕一、一、七  
〒(〇九五) 八二五、七二二四
- 一、四條流庖丁式三重社中  
代表(大橋柏彰) 三重県三重郡菟野町菟野一六三六、二二三  
〒(〇五九) 三九九、二五七六
- 一、四條流庖丁式北海道社中  
代表(進藤柏北) 北海道釧路市城山一、八、八  
〒(〇一五四) 四一、二二五九
- 一、四條流庖丁式鹿児島社中  
代表(長谷川柏雄) 鹿児島県鹿児島市鴨池新町一、一七  
〒(〇八一) 三三二、九二二六

坂東報恩寺組板開き、  
神田明神だいく祭  
百万石まつり尾山神社御奉納  
波自加彌大祭生姜まつり御奉納

四條流庖丁儀式

皆様方には 古式豊かな四條流庖丁式を

ご觀賞下さいませ

